



NPO 法人 日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
— JSPON —
News Letter Vol.27



関東甲信地域では、過去に類のない6月の梅雨明け。その一方で、九州・西日本の大雨や台風、さらにこの春、長野、群馬、そして大阪と、各地で震災も多発しました。自然災害が猛威を振るう中、被害を受けた方々へお見舞いを申し上げるとともに、一日も早く皆様が平穏な日々を取り戻せるようお祈り申し上げます。学会ではこれからも、災害によって子どもたちの治療が滞ることのないよう、医療機関と十分な連携をとりながら皆様とともに活動していきます。

第16回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第16回日本小児がん看護学会学術集会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、京都ロームシアター/京都市勧業館みやこめっせにて、2018年11月14日(水)～16日(金)の3日間の予定で開催いたします。

今回の学術集会は「子どもらしさ家族らしさをささえる」をテーマと致しました。今日の医療の目覚ましい発展により、小児がんの子どもやその家族を取り巻く環境は大きく変化しています。情報化社会が進む中、子どもやその家族は主体的に情報を集め、より良い環境で治療を受けたいと願うようになってきました。そしてその願いは、多くの方々の努力のもとに、様々な形で実現されています。

このような状況の中、看護職も子どもや家族を中心とした看護の重要性を認識するようになってきました。そこで、今回の学術集会では、どのような困難な状況の中でも、その子どもらしくまた家族らしくいられるように、子どもや家族を支える看護について、参加された皆様と共有したいと考えております。

教育講演は、がん看護専門看護師の先駆者であり、淀

川キリスト教病院のホスピス病棟での活躍が「NHK プロフェッショナル 仕事の流儀」でも取り上げられ、現在も様々な形でがん患者の方々を支援し続けている、京都大学大学院の田村恵子先生に、「小児の緩和ケアへの示唆 - 成人・老人への緩和ケアを手がかりに -」をテーマにお話しいただきます。また、シンポジウムは、「子どもらしさ家族らしさを支えるとは - 子どもや家族の思いに寄り添いながら行う意思決定支援を考えてみよう -」をテーマとして、看護師だけでなく、心理士やチャイルドライフスペシャリストの方からもお話をしていただき、その後参加者の方々とのディスカッションを行う予定です。

さらに、日本小児がん看護学会委員会主催のセミナーは、「日常的なケアに活かす看護研究のエビデンス～中心静脈カテーテル管理について～」、「小児がん看護師の認定制度について」「小児がん治療の曝露対策」の3つが計画されております。そして、3団体合同/CCI Educational Program Joint 公開パネルディスカッションでは、海外から、医師 Dr. Andrea Ferrari 先生、看護師 Dr. Louise Soanes 先生、小児がん経験者 Patrick Yip 様の3名を講師としてお招きし、「長期フォローアップ」に関するテーマでディスカッションを行う予定です(同時通訳あり)。

この他にも、厚生労働省医務技監である鈴木康裕先生のご講演、池坊次期家元の立花パフォーマンス、絵画展、チャリティーイベントなど様々な企画を準備しております。また今回の学術集会に引き続き SIOP2018 が京都国際会館において開催されますので、国際学会へもぜひご参加下さい。紅葉シーズンの真っ只中にあります京都で皆様をお待ちしております。

第16回日本小児がん看護学会学術集会長
堀妙子

〔テーマ〕 「子どもらしさ家族らしさをささえる」

- 会 期 : 2018年11月14日(水)～16日(金) ▪ 会 場 : ロームシアター京都/京都市勧業館みやこめっせ
- HP アドレス : <http://www.c-linkage.co.jp/jspho2018/>
- 参加費 : 当日受付のみ 看護師 10,000円 (3団体共通、すべての会場に参加可能)
- 会員登録 : 日本小児がん看護学会ホームページ <http://jspon.sakura.ne.jp/admission/> 入会申し込み方法

〔プログラム〕

- | | |
|---|---|
| 教育講演 | 「小児の緩和ケアへの示唆-成人・老人への緩和ケアを手がかりに-」 |
| 看護シンポジウム | 「子どもらしさ家族らしさを支えるとは
-子どもや家族の思いに寄り添いながら行う意思決定支援を考えてみよう-」 |
| 学術検討委員会セミナー | 「日常的なケアに活かす看護研究のエビデンス～中心静脈カテーテル管理について～」 |
| 政策委員会セミナー | 「小児がん看護師の認定制度について」 |
| 教育委員会セミナー | 「小児がん治療の曝露対策」 |
| 3団体合同/CCI Educational Program Joint 公開パネルディスカッション | 「長期フォローアップ」 同時通訳あり |
| 特別講演 | 「医療の構造改革 変わるのは、今だっ！」 |

第15回日本小児がん看護学会学術集会の報告

第15回日本小児がん看護学会学術集会を、第59回日本小児血液・がん学会学術集会、第22回がんの子どもを守る会シンポジウムとともに、2017年11月9日～11日の3日間、愛媛県松山市ひめぎんホールで開催いたしました。学術集会では「子どもと家族の歩む道とともに拓く」をテーマに、四国で初めて開催いたしました。学術集会には1467名（医師851名、看護師342名、他職種257名、医学・看護学生17名）と多くの皆様にご参加いただき、盛会のうちに無事終了することができました。

海外招聘講演にはボストン子ども病院で血液腫瘍臨床教育者としてご活躍されているCollen Nixon先生をお招きし、“The personal and professional gains of obtaining pediatric hematology/oncology nursing certification”をテーマに、小児がんを持つ子どもに関わる看護師の役割や機能と、専門資格を持つ看護者の成長についてご講演いただきました。また、愛媛県立中央病院の石田也寸志先生には、「小児がん経験者の長期フォローアップにおいて看護師に期待する役割」についてお話しいただき、長期フォローアップの方向性について示唆を得ることができました。

さらに、今回の学術集会ではこれまで以上に、日本小児血液・がん学会ならびにがんの子どもを守る会と、多くの合同プログラムを開催することができました。合同特別講演では、昭和大学大学院保健医療学研究科の副島賢和先生に、「病気の子どものなぜ教育が必要なの？涙も笑いも、力になる」と題してご講演いただき、療養を続けながらも学ぶことができる学習機会の重要性を改めて考える機会となりました。また、パネルディスカッション「小児緩和ケアにおける医師と看護師の協働」、三団体合同公開ワークショップ「小児がんおよびAYAがん患者の長期フォローアップの現状と展望」、看護シンポジウム「小児がん拠点病院と地域の診療病院との連携の実際と課題」なども開催され、小児がんの子どもをサポートする看護師の役割と機能や専門性について、活発な討論と学術的な研鑽に加え、多くの情報交換をしていただけたことと存じます。

合同シンポジウム「笑顔のたねパートⅡ」では、子どもに夢を与える活動やクリニックの実践、子どもホスピスの活動が紹介され、子どもが生き続けるための夢・笑い・遊びの大切さを実感しました。また、学会委員会が主催したセミナーは、「きょうだい支援」、「End-of-Life Care」、「小児がん看護の専門教育制度」、「みんなSIOP2018に参加しよう！」が開催されました。一般演題では66演題（口演55演題・示説11演題）の発表が行われました。今年は長期フォローアップに関するものが11演題と最も多く、小児がん患者の長期的な支援の在り方について活発なご討論を頂きました。

最後になりましたが、本学術集会に参加された先生方とスムーズな運営にご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

会長 薬師神裕子

（愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻小児発達看護学教授）



SIOP2018のお知らせ

下記の日程で、第50回国際小児がん学会(SIOP2018)が開催されます。日本での開催は、1998年(横浜)以来2回目です。Educational day、SIOP2018の看護セッションの両方とも、同時通訳が入ります。Educational dayのみの参加(70\$)も可能です。当日のみ購入可能な1dayチケット(150\$)もあります。皆さん、是非参加しましょう。

開催日：11月16日(金) Educational day,
17日(土)～19日(月) SIOP2018

開催場所：京都国際会館

HP：<https://siop.kenes.com/2018>

【2017年度会計報告】

<収入の部>

項目	決算額(円)	内訳
会員年会費	3,941,000	563名分
事業収入	318,572	研修会事業収益
雑収入など	59,344	学会誌販売、受取利息など
前期繰越収支差額	9,973,640	
計	14,292,556	

<支出の部>

項目	決算額(円)	内訳
事業費	2,189,570	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	2,257,727	会員管理費、会議費、通信費、消耗品費など
計	4,447,297	

収入 14,292,556

支出 4,447,297

収支 9,845,259

中心静脈(CV)カテーテル挿入中の管理について

子どもたちにとって、自分の体にある中心静脈(CV)カテーテルとは、どのような存在なのでしょう。小児がん領域において、安全に長期の化学療法を行うために不可欠な CV カテーテルの管理は、日常的な看護の一つと言えます。一方で、その身近さゆえに多くの悩みもあるのではないのでしょうか。同じ CV カテーテルであっても、施設によりその管理方法は多種多様です。今回は、その CV カテーテル管理について述べたいと思います。

CV カテーテルの種類には通常の穿刺型以外に、皮下トンネル型(Bloviac・Hickman カテーテル)、末梢刺入型(PICC)、完全皮下埋込み型(CV ポート)などがあります。選択にはカテーテルの特性を考慮し、子どもの成長発達、治療内容が重要になります。また年長児程度の年齢では、メリット・デメリットの説明をすることで、医療者と一緒にカテーテルの種類を検討することもできます。

CV カテーテルのトラブルには、予定外抜去、カテーテル閉塞(血栓、結晶など)、カテーテル関連血流感染(CRBSI)、カテーテル刺入部感染などが挙げられます。いずれのトラブルも患児の苦痛や恐怖、カテーテル抜去、治療中断、そして生命予後にもかかわる重大なリスクになるため、看護師の日常的な管理が大切になります。

子どもに抜去されることを予防するには、看護師のルート管理に対する創意工夫が求められます。カテーテルが直接引っ張られないようにするための固定には、テープなどを用いて身体に直接固定する方法と、首から下げるような収納ポーチや、衣類に手を加えるなどして間接的に固定する方法などが多く用いられます。年少児では時に、ルート「隠す」ということも行われています。また安全性に加え、「子どもが不快でない」「簡便である」ことも大切で、その「子ども」に応じた対応策が求められるでしょう。

カテーテルの閉塞に際しては、パルスフラッシュや陽圧ロックといった日常的な看護技術の徹底が重要になります。

最近では、グローション®カテーテルなどヘパリンでのロッキングが不要(生理食塩水によるルート内洗浄は必要)とされる製品もありますので、大変便利になりました。

CRBSI 予防のためには、日々の刺入部のケアや輸液(注射)管理、ルート管理における看護師の適切な対応が求められます。閉鎖式ルートは多くの施設で導入されていますが、小児は高柵ベッドの使用や行動範囲から、独自に延長ルートの追加を行うこともあり、そうなることで接続部はずれや感染のリスクは上がることになります。そのため、生活の中で安全との兼ね合いを図ることが重要となるでしょう。

刺入部の消毒には通常、0.5%以上のクロルヘキシジアルコール製剤が推奨されています。ただし、重篤なアレルギーのリスクがあること、2 か月未満の乳児には安全性が確立されていないことは知っておきたい知識ですね。

CV カテーテル管理には、エビデンスレベルの高いものは少ないのが現状です。一方で、管理方法が不適切であると子どもたちにとって重大な事態を引き起こしかねません。漫然と同じ管理を繰り返すのではなく、その根拠を見直し、目の前にいる「その子」にとって安全で生活しやすいケアを常に検討することが大切です。施設を超えた看護師間でその知識や技術を検討するような機会があると、ケアの幅はさらに広がるのではないのでしょうか。

倉敷中央病院 小児看護専門看護師
森貞敦子



小児がん連携病院(仮称)が指定されます!

厚生労働省では、これまでに3回の「小児・AYA世代のがん医療・支援のあり方に関する検討会」を開催し、2019年4月から始まる新たな小児がん拠点病院の指定要件について審議してきました。今回の重点課題は、「小児期に発症してAYA世代になる場合とAYA世代で発症した場合などの年齢軸やがん腫、地理、就学就労を含めた支援体制」です。そのため、患者がどこにいても適切な治療を受けられるよう、小児がん拠点病院と協力して治療する「小児がん連携病院(仮称)」を新たに100カ所程度、指定することを決定しました。そのうえで近々、7ブロックの中で新たに小児がん拠点病院を指定するための指針を発表する予定です。拠点病院には医療安全管理部門を設置し、

安全管理者として、常勤の医師、薬剤師、看護師を配置することを指定要件とすることも盛り込まれる予定です。

今後、拠点病院と連携病院は、病院の特徴ごとに①小児がん診療の地域連携、②専門性の高いがん種(脳腫瘍や難治性がん等)について連携・情報集約、③長期フォローアップを行うこととなります。地域ブロックごとに拠点病院、連携病院、都道府県などによる連絡協議会を設け、ネットワーク化を図ることになるでしょう。日本小児がん看護学会も、このネットワークと協働し、小児がん看護を専門とする看護師の育成や質の向上に尽力していきます。

(政策委員会 井上玲子)



第15回小児がん看護研修会のご案内

第15回小児がん看護研修会「小児がん患者の在宅移行～その暮らし、家族らしさを支えるために～」を8月25日(土)に、国立成育医療研究センター講堂で開催いたします。事前申し込みの締め切りは8月10日(金)です。内容は、第1部では「小児がんの在宅移行について」の講演、また「小児がん患者の在宅移行の実際」についてお話を頂きます。第2部グループワークでは「在宅移行に向けて必要な調整」「家族の意思決定を支援する際のコミュニケーション」について事例を用いた検討を行う予定です。申し込み方法や詳しいプログラムは、ホームページをご覧ください。こちらのQRコードからも申し込み可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

問い合わせ：教育委員会

Email: kenshu@jspon.com



平成30年度 日本小児がん看護学会 組織・体制 理事・監事

理事長：上別府圭子

副理事長：塩飽 仁 富岡晶子

理事：石川福江 井上玲子 内田雅代 小川純子

小原美江 小林京子 込山洋美 佐藤伊織

竹之内直子 田村恵美 平田美佳

監事：野中淳子 森美智子

組織体制

下線：委員長

将来計画委員会：塩飽 仁 井上玲子 内田雅代

上別府圭子 竹之内直子 田村恵美 富岡晶子

教育委員会：竹之内直子 石川福江 小川純子

荒井由美子 込山洋美 柴田映子

編集委員会：小林京子 佐藤伊織 岩崎美和 東樹京子

古谷佳由理 前田留美

国際交流委員会：小川純子 平田美佳 河上智香 山下早苗

ケア検討委員会：小原美江 内田雅代 竹之内直子 平田美佳

白井史

学術検討委員会：佐藤伊織 小原美江 上別府圭子

副島堯史 河俣あゆみ

広報委員会：塩飽 仁 井上玲子 田村恵美 入江巨

研究助成委員会：塩飽 仁 田村恵美

政策委員会：井上玲子 小林京子 田村恵美 前田留美

柴田映子 川勝和子

会計：富岡晶子 石川福江

庶務：佐藤伊織

事務局：副島堯史 佐藤伊織

合同学会7'0'7'ム委員：上別府圭子 内田雅代 小川純子

小原美江 富岡晶子

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1月～12月となっております。平成30年度の振込みがお済みでない方は、お早目をお願いいたします。

[会費振込み先]

郵便振替口座：00590-9-79689

名称：特定非営利活動法人

日本小児がん看護学会

◆小児がん看護学会誌編集委員会より◆

次号の学会誌「小児がん看護」の発刊は9月です。学会誌「小児がん看護」に掲載される論文の種類は、総説(主題について多角的に知見を集め、総合的に学問的状况を概説し、現状と展望を明らかにしたものの)、原著(主題にそって行われた実験や調査のオリジナルなデータ、資料に基づき新たな知見、発見が論述されているもの)、研究報告(主題にそって行われた実験や調査に基づき論述されているもの)、実践報告(ひとつもしくは複数の症例や臨床現場の実態を踏まえて行われた看護について報告し、論述されているもの)、資料(主題に関連する有用な調査データや文献等に説明を加えたもので、資料としての価値があるもの)があります。このような種別を設けることで、臨床におられる看護師のみなさまからの実践報告、研究者や大学院生のみなさまからの原著論文など、様々な知見を公表する場・共有する場にしたいと考えています。次々号への投稿につきましては随時受けつけておりますので、奮ってご投稿ください。

<学会事務局>

■学会事務局■

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
家族看護学分野内

FAX: 03-5841-3694 E-mail: office@jspon.com

■会員管理事務局■

(新住所表記 ※ビル名は省略します)

〒170-0002 東京都豊島区東鴨 1-24-1-4F

(株)ガリレオ

FAX: 03-5981-9852

日本小児がん看護学会ニュースレター担当

東海大学医学部看護学科 井上玲子

埼玉県立小児医療センター 田村恵美

[連絡先] 〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

東海大学医学部看護学科内

E-mail: rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp